

株式会社レノバ「（仮称）三重布引風力発電事業に係る
計画段階環境配慮書」に対する意見について

平成29年10月10日
経 済 産 業 省
商 務 情 報 政 策 局
産 業 保 安 グ ル ー プ

本日、環境影響評価法第3条の6の規定に基づき、「（仮称）三重布引風力発電事業に係る計画段階環境配慮書」について、株式会社レノバに対し、環境の保全の見地からの意見を述べた。

意見内容は別紙のとおり。

（参考）当該地点の概要

1. 計画概要

- ・ 場 所 : 三重県津市、亀山市及び伊賀市
- ・ 原動力の種類 : 風力（陸上）
- ・ 出 力 : 最大67,500kW

2. これまでの環境影響評価に係る手続

| | |
|-------------|-------------|
| 計画段階環境配慮書受理 | 平成29年 7月31日 |
| 環境大臣意見受理 | 平成29年 9月26日 |
| 経済産業大臣意見 | 平成29年10月10日 |

問合せ先：電力安全課 高須賀、松井
電話03-3501-1742（直通）

株式会社レノバ「（仮称）三重布引風力発電事業 に係る計画段階環境配慮書」に対する意見

1. 総論

（1）対象事業実施区域の設定等

本事業の事業実施想定区域の大部分は、現時点において、他事業者が計画する風力発電事業の事業実施想定区域と重複していることから、重複した事業実施想定区域において事業を計画している他事業者と速やかに事業計画に係る協議・調整等を行い、方法書及びそれ以降の手續において適切な対象事業実施区域を設定した上で環境影響評価を実施すること。

対象事業実施区域の設定及び風力発電設備及び取付道路等の附帯設備（以下「風力発電設備等」という。）の構造・配置又は位置・規模（以下「配置等」という。）の検討に当たっては、計画段階配慮事項に係る環境影響の重大性の程度を整理し、反映させること。

上記内容について、地元関係者等に対し、丁寧かつ十分な説明を行うこと。

（2）累積的な影響

他事業者が計画している風力発電設備等のうち、本事業との累積的な環境影響が懸念されるものについては、今後、環境影響評価図書等の公開情報の収集や当該事業者との情報交換等に努め、累積的な環境影響について適切な予測及び評価を行い、その結果を踏まえ、風力発電設備等の配置等を検討すること。

（3）事業計画の見直し

1.（2）及び2.（4）により、騒音等及び風車の影による生活環境への影響並びに鳥類に対する影響を回避又は十分に低減できない場合は、風力発電設備等の配置等の再検討、対象事業実施区域の見直し及び基数の削減を含む事業計画の見直しを行うこと。

（4）環境保全措置の検討

環境保全措置の検討に当たっては、環境影響の回避・低減を優先的に検討し、代償措置を優先的に検討することがないようにすること。

2. 各論

（1）騒音等に係る環境影響

事業実施想定区域の周辺には複数の住居及び環境の保全についての配慮が特に必要な施設（以下、「住居等」という。）が存在しており、工事中及び供用時における騒音による生活環境への影響が懸念される。このため、風力発電設備等の配置等の検討に当たっては、「風力発電施設から発生する騒音等測定マニュアル」（平成29年5月環境省）及び最新の知見等に基づき、住居等への影響について適切に調査、予測及び評価を行い、その結果を踏まえ、風力発電設備等を住居等から離隔すること等により、騒音等による生活環境への影響を回避又は極力低減すること。

（2）風車の影に係る環境影響

事業実施想定区域の周辺には複数の住居等が存在しており、供用時における風車の影による生活環境への影響が懸念される。このため、風力発電設備の配置等の検討に当たっては、住居等への影響について適切に調査、予測及び評価を行い、その結果を踏まえ、風力発電設備を住居等から離隔すること等により、風車の影による生活環境への影響を回避又は極力低減すること。

(3) 土地の改変に伴う自然環境に対する影響

事業実施想定区域及びその周辺には、砂防法（明治30年法律29号）に基づき指定された砂防指定地、森林法（昭和26年法律第249号）に基づき指定された保安林、三重県が公表する土砂災害危険箇所等が存在しており、土地の改変による土砂崩落及び河川・沢筋等への土砂又は濁水の流出等によって生ずる、動植物の生息・生育環境への影響が懸念される。このため、風力発電設備等の配置等の検討に当たっては、専門家等からの指導・助言を踏まえ、土砂流出の可能性の高い箇所の改変を回避するとともに、複数案の比較・検討に基づく既存道路の活用等により土地の改変量を最小限に抑えるなど、動植物の生息・生育環境への影響を回避又は極力低減すること。

(4) 鳥類に対する影響

事業実施想定区域及びその周辺では、クマタカ等の希少猛禽類の生息が確認されていることから、本事業の実施により、風力発電設備への衝突事故、移動経路の阻害等による鳥類への重大な影響が懸念される。このため、本事業の風力発電設備の配置等の検討に当たっては、専門家等からの助言を踏まえた鳥類に関する適切な調査、予測及び評価を行い、その結果を踏まえ、風力発電設備の配置等を検討すること。

以上の検討の経緯及び内容について、方法書以降の図書に適切に記載すること。